

2009年度がん対策に関するタウンミーティング (2010年1月23日)

1月23日(土)、厚生労働省がん対策推進協議会提案書取りまとめワーキンググループ(※注1)による『2009年度がん対策に関するタウンミーティング』が、当福岡県でも開催されました。これは「患者と現場、地域の声」を、広く集約し、国のがん対策に関する提案書にまとめるため、今年度は1・2月中に島根・広島・福岡・新潟・青森・長崎の6箇所で開催されました。

当日は、一般市民・医療従事者・がん患者・行政担当者・県がん対策推進協議会委員・NPO法人・県議会議員など各関係者が参加しておりました。

協議会委員・埴岡健一氏より『がんは現場で患者の中で起こっている、国のがん対策は国民や患者が考えるべき』などのご挨拶に始まり、福岡県庁担当者より福岡県のがん対策の現状について、厚生労働省へ提出する提案書の取りまとめについて、来場者による意見シート(提案書に集約するためのアンケート)記入、その後の意見聴取がありました。意見聴取は、がん対策に関する『予算面・診療報酬面・制度面』の三点について、それぞれ「行政(県)担当者」「県がん対策推進協議会委員」「患者などの一般参加者」より意見が出されました。

その中でも、医療の質の均てん化・医療機関の連携・検診受診率アップの方法・在宅緩和ケアの充実・患者による患者サポートの重要性・・・が、患者である私の心にも『早急に！』と響きました。

がんの当事者である患者の声と心が、お国に届きますように。がんになっても少しでも不安が小さく、長生きできるような国になりますように。そのために、私達患者も何をすべきか考える時代なのかもしれないですね。

※注1 厚生労働省がん対策推進協議会提案書取りまとめ担当委員 (WG)とは？

がん対策推進協議会委員20名(内がん患者6名)のうち、14名で構成され、うち5名が患者代表である。がん対策推進基本計画に基づく施策の検討を行い、タウンミーティングなどで吸い上げられた意見を集約し、提案書にまとめ厚生労働大臣に提出されます。